

Holocrisis: World Politics between Hope and Apocalypse

危機のない未来などあり得るだろうか。私は、その答えは明らかに「ノー」と主張する。社会は危機なしには存在し得ず、危機こそがあらゆる社会的ものの構成要素である。しかし、現代のグローバル政治における危機の具体的な形態は、そうではない。世界政治の現状を理解するためには、新たな危機論を構築する必要がある。意思決定理論に焦点を当てることは、実際に重要なもの、すなわち危機そのものを排除してしまうことになる。危機が意思決定者に届く以前に、何が危機を構成しているのかを深く理解しなければ、危機論を構築することは到底不可能である。したがって、危機の存在論に関する問いが、この取り組みの中心的な関心事となる。そこで私は、意思決定理論の領域を離れ、私がホロクライシスと呼ぶ概念に目を向け、社会構造という概念をより深く掘り下げていく。本発表では、まずこの新造語の意味内容を提示し、次にこの視点から現代の世界政治を分析する。

Dirk Nabers has held the Chair of International Political Sociology at the Kiel University, Germany, since 2010. He was previously a Senior Research Fellow at the GIGA German Institute for Global and Area Studies in Hamburg. He has been a visiting professor in Japan, New Zealand and Estonia. His main research interests are in the theories of international relations, sociological theories, the sociology of politics, in theories of post-structuralism and East Asian IR. His publications include five monographs, numerous edited volumes and over 100 articles, including in leading journals such as Review of International Studies, Foreign Policy Analysis, International Studies Perspectives, International Relations of the Asia-Pacific, Critical Studies on Security, New Political Science, Politische Vierteljahresschrift, Politics and Global Studies Quarterly.



ディルク・ナーバース教授は、2010年よりドイツのキール大学で国際政治社会学の教授を務めている。それ以前は、ハンブルクのGIGA（ドイツ国際地域研究所）で上級研究員を務めていた。また、日本、ニュージーランド、エストニアで客員教授を歴任した。主な研究分野は、国際関係論、社会学理論、政治社会学、ポスト構造主義理論、および東アジアの国際関係論である。著書には5冊の単著、多数の編著、および100本以上の論文があり、その中には『Review of International Studies』、『Foreign Policy Analysis』、『International Studies Perspectives』、『International Relations of the Asia-Pacific』、『Critical Studies on Security』、『New Political Science』、『Politische Vierteljahresschrift』、『Politics』、『Global Studies Quarterly』といった主要な学術誌への掲載論文も含まれている。

日程

2026年10月14日 15:15～17:00

問合せ先

adebahr@harbor.kobe-u.ac.jp

会場

鶴甲第一キャンパス E棟大会議室（4F）



神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート 主催セミナー

お申し込み

